

雑草の生存戦略から学ぶ

弱者とはずれ者たちのしたたかな知恵

第1回

タンポポ、シロツメクサ、オオバコ



雑草の生き方研究家
稲垣 真衣

(いながき まい)和歌山県生まれ。静岡大学農学部卒業。大学では稲垣栄洋教授の雑草学研究室に所属。卒業後に就職した職場で適応障害を患い、生きづらさを感じていた時、雑草の戦略的な生き方に関心を持ち、その魅力に取りつかれる。現在、YouTubeチャンネル「雑草のんびりライフ」を運営するほか、ラジオや講演活動などを通して雑草の生き方を伝えている。

監修：稲垣栄洋(静岡大学農学部教授)

雨風にさらされ、雑踏の中で誰に見向きもされずとも、めげることなく必死に生きる雑草の姿が「雑草魂」と呼ばれ称賛されます。しかし、それは人間が勝手に決めつけた理想の雑草像でしかありません。本当の雑草は、踏まれてもあえて立ち上がり、踏まれながら自分の居場所を見つける戦略家なのです。この企画では、そんなしたたかな雑草から、のびのびと^{すべ}楽に生きていく術を学びます。今回は、タンポポ、シロツメクサ、オオバコをご紹介します。

「踏まれても立ち上がる」は本当？

「踏まれても踏まれても立ち上がる、それが雑草魂だ！」そんな言葉をよく耳にします(図1)。日本ではしばしば「雑草魂」という言葉がもてはやされます。踏まれても必死に生きる雑草の姿を、つらいことにも耐えて努力するという人間の教訓に仕立てたのでしょうか。しかし、本当にそうでしょうか？よく観察してみると踏まれている雑草は、踏まれるたびに立ち上がることはしていません。1度や2度踏まれた程度だと立ち上がるかもしれませんが、頻繁に踏まれる場所だと立ち上

がることをやめてしまうのです。何だか情けないような感じもありますが、そうではありません。「踏まれたら立ち上がらない」ことが雑草の戦略で、そこに本当の雑草魂があるのです。

それでは、立ち上がりながらどう生きていくのでしょうか。

タンポポを例に見てみましょう。タンポポは踏まれなかったところでは、茎を高々と伸ばします。しか



図1 踏まれても踏まれても

し、よく踏まれる場所では地面にべたっと張り付くように茎を伸ばしています。踏まれて茎が倒れてしまったようにも見えますが、そうではありません。タンポポは葉っぱが踏まれる刺激を受けると、自分から茎を横に伸ばします。こうして、踏まれる衝撃を逃しているのです。

それだけではありません。タンポポは葉を放射状に広げて、地面にぴったりとつけています(図2)。この姿はローズ(バラの花)に似ていることからロゼット葉と呼ばれます。茎を伸ばさずに葉を広げるロゼットも、踏まれることに強い形です。こうして踏まれながら、タンポポは光合成を行い、力を蓄えるのです。

植物が縦に伸びるのは、他の植物よりも高い位置に葉を広げて光合成をするためです。しかし、踏まれる場所では植物は縦に伸びることはできません。そのため、地面にぴったりと葉をつけることによって、日光を浴びることができるのです。

タンポポの生き方はつらく厳しい時期の過ごし方を私たちに教えてくれます。そもそも、どうして立ち上がらなければならないのでしょうか？ タンポポにとって大切なことは、花を咲かせて、種子を残すことです。そうであるとすれば、踏まれても踏まれても立ち上がることは、タンポポにとっては無駄な努力です。それよりも、タンポポは踏まれながら花を咲かせることを考えます。そして、花を咲かせることにエネルギーを使うので



図2 放射状に葉を広げるタンポポ

す。つらいときは無理に立ち上がるのではなく、次のチャンスに向けてしっかりとエネルギーを蓄えるのです。立ち上がることに目を奪われず、大切なことを見失わない。それがタンポポの生き方なのです。

幸せのイメージに隠された苦難

小さい頃、必死に四つ葉のクローバーを探した、なんて経験はありませんか？

四つ葉のクローバーと呼ばれる植物、本当の名前をシロツメクサと言います(図3)。四つ葉のクローバーの花言葉は「幸福」。「幸せ」の象徴です。実は四つ葉のクローバーも踏まれることが関係しているのです。

ところで、どうして四つ葉のクローバーが幸せの象徴になったのか、ごぞんじでしょうか？ 葉っぱが十字にクロスしているように見えますが(図4)、シロツメクサの原産地であるヨーロッパでは、美しい四つの葉の形がキリストの十字架を象徴しているとされてきました。そして、幸運や幸福をもたらすと考えられたのです。それだけではありません。

四つ葉のクローバーは探しても探しても、なかなか見つかりませんよね。何しろ一説によれば、四つ葉のクローバーが発生する確率は、1万分の1程度とも言われています。それだけ珍しいものなので、見つけると幸運が訪れると考えられたのかもしれませんが。

ときどき、四つ葉だけではなく、五つ葉や六つ葉が見つかることもあります。しかし、五つ葉や六つ葉のクローバーは逆に不幸を招くとも言われています。何事も多すぎるとはダメで、ほどほどであることが、本当の幸せなのかもしれません。

ところで、シロツメクサの葉っぱは、通常は三つ葉ですが、どのようにして幸せの「四つ葉のクローバー」が生まれるのでしょうか？ その理由はいくつか考えられていますが、一つは「踏まれること」にあります。四つ葉のクローバーを探すときには、人が通らない場所を探すよりも、人に踏みつけられるよ



図3 シロツメクサの花

うな場所の方が見つかりやすいことがあります。人に踏まれると、葉っぱの基になる原基が傷つきます。そして傷ついて分裂することによって、本来、三つ葉であるはずのものが、四つ葉になるのです。

シロツメクサは、こうして踏まれながら幸せの象徴を生み出しています。踏みつけられた場所に幸せの象徴が生まれるって、何だか不思議です。本当の幸せは、踏みつけられながら、傷つきながら、育つものなのかもしれません。

ストレスを受け流すしなやかさ

公園でオオバコを見かけると、子どもの頃に草相撲に夢中になったことを思い出します(図5)。オオバコの茎は、よくしなります。そして、引っ張り合っても簡単にちぎれることはありません。そのため、オオバコの茎は草相撲にもってこいなのです。

オオバコは、むしろ踏まれるところによく生えています。オオバコは別名を車前草しゃぜんそうと言います。車が通る道に多く自生していることが、その名前の由来です。人間に踏まれるだ



図4 四つ葉のクローバー

けでなく、大きく重い車に轆かかれても負けないオオバコは、まさに「雑草魂」を体現する雑草と言えるでしょう。しかし、オオバコは踏まれることに、歯を食いしばって耐えているわけではありません。上手に踏まれることでストレスを逃しています。

よくしなって、ちぎれない茎は踏まれることに強い秘密の一つです。それでは、葉はどうでしょうか？

手で簡単にちぎれるほど柔らかい葉で、踏まれる衝撃をうまく逃します。しかし柔らかいだけではちぎれてしまいます。そのため、葉の内側に骨の役割を担うような硬く太い筋を持っているのです。硬い体で守ることもだけでもダメですし、柔らかく衝撃を逃すことだけを考えていてもいけません。オオバコの茎や葉は、この両方を併せ持つから強いのです(図6)。

しかし、オオバコは踏まれることに耐えて



図5 踏まれることで繁殖するオオバコ

いるだけではありません。実は、踏まれることを巧みに利用して繁殖しているのです。どういことでしょうか？

オオバコの種子は水に濡れるとゲルのように粘性を持ちます。そのため、雨が降って地面が濡れた後、その場所を人間や動物が踏み、車が通ることで、その足やタイヤに種子がくっつきます。そうしてオオバコはくっつき虫のように、人間の足の裏にしがみついて陣地を広げていくのです。つまりオオバコにとって、踏まれることは耐えることではありません。そうしなければ困ってしまうほどまでに、踏まれることを利用しているのです。

オオバコの生き方はストレスの対処法を教えてください。凝り固まった頭でむやみに「頑張り」と体にむち打っても、いつかストレスに身体を壊されてしまいます。自分自身の内面に簡単にちぎれることのない硬い芯を持ちながらも、柔らかい発想でストレスをうまく受け流します。そして、逆境は耐えることでも、克服すべきことでもありません。オオバコのように、逆境すらも利用してやれば良いのです。(つづく)



図6 オオバコの葉